

# 天中だより



## ダイビング体験

校訓  
自主 協和 強健

天草市立天草中学校  
令和6年9月13日  
文責：校長 瀧森 智

## 体験ざんまいの9月です

台風十号の影響で、二日間臨時休校となりましたが、九月二日から二学期がスタートしました。

二学期は、文化面・体育面でいろいろな行事を予定していますが、九月は各学年の体験学習が行われ、積極的に活動する子供たちの姿が随所に見られました。

### 二年職場体験学習

五日(木)・六日(金)の二日間、南消防署西天草分署・ニューヤマザキデリーストア・もみじ保育園・白鷺館温泉センター・うみ猫食堂にお世話になりました。

体験を通して、仕事を



する上で大切なことに気づき、現在の自分の課題について考える貴重な機会となりました。受け入れていただいた事業所の皆様、ありがとうございました。

### 一年世界遺産学

十一日(水)、崎津集落・崎津天守堂・コレジヨ館などを訪れ、ガイドさんの説明のもと、潜伏キリシタンの歴史や南蛮文化伝来の天草の雰囲気を感じることができました。



### 三年スキューバダイビング体験

十日(火)、天草うみの学校の森校長・徳村さんのご指導のもと、ウエットスーツを着て本格的な機材を使ったダイビングを体験しました。白鶴浜のきれいな海や魚の群れを実際に見て、豊かな自然を確認することができました。



### 二年SUP体験

十二日(木)、サンセットカフェの玉城さん・田口さん、インストラクターの高原さんのご指導のもと、SUP(スタンダードアップパドルボード)を体験しました。ボードに立ち上がって優雅に海上散歩できた子、悪戦苦闘して海に転落する子など様々でしたが、白鶴浜のきれいな海を満喫することができました。



### 「少年の主張」熊本県大会に出場します!

「少年の主張」熊本県大会が、二十三日(月)に県庁で行われます。本来は八月三十一日に天草市民センターで行われる予定でしたが、台風十号の影響で延期となりました。

この大会に本校三年の川原菜生さんが、天草地区の代表として「天草を日本の宝島へ」を発表



始業式で発表しました

### 「探究」・「発信」の二学期

校長室より

「天草体験学習」では、体験的な活動を通して、子どもたちの郷土を愛する心情を育み、将来子どもたちが故郷天草を離れても、自分たちのふるさとの

天草の豊かな自然や文化に触れ、地域の方々思いを知る体験は、子供たちのこれからの「生き方」に大きな影響を与えます。体験を通して学んだことを、各教科の学習と結びつけて更に探究し、いろいろな方法で発信する取り組みを行っています。

ことを胸を張って語れるようにしたいという思いを込めて、天草小・中学校で系統的な取組を実践しています。

子供たちが主体的に問いを持ち、課題を設定し、解決に向けて行動を起こしていく力を付けていきたいです。

### 今後の主な行事予定

- 【9月】  
16(月)：敬老の日  
18(水)～20(金)：第2回定期テスト  
23(月)：振替休日、「少年の主張」熊本県大会  
26(木)：駅伝試走(午後)  
27(金)：英検(放課後)
- 【10月】  
7(月)：振替休業日(12(土)の分) 駅伝試走(午前)  
10(木)：通知表配付日  
12(土)：文化発表会  
16(水)：郡市駅伝大会  
17(木)：下校時間移行(SB@18:00)  
19(土)：県中学生新人ワトレス大会(個人戦)

『天草中学校HP』は、下のQRコードから閲覧できます。ご覧ください。



# 天草地区代表として出場します!~第46回「少年の主張」熊本県大会~

## 天草を日本の宝島へ

天草市立天草中学校三年

川原 菜生

高浜の町は葡萄で掩はれて  
居る

家毎に棚がある  
棚なき家は屋根に葡萄はす  
それを見て南の海の島らし  
い感じがした

この言葉は、与謝野鉄幹・北  
原白秋・吉井勇ら、文学史に名  
を残す詩人たちが、若い頃に  
九州各地を旅して記した紀行  
文『五足の靴』に書かれたもの  
です。ここに登場する「高浜ぶ  
どう」はもちろんのこと、東シ  
ナ海に沈む夕陽、陶磁器の原  
料となる良質の天草陶石、白  
亜の大江天主堂など私の故郷  
天草町は魅力にあふれていま  
す。

しかし、今、私の愛する故郷  
天草町は大きな問題を抱えて  
います。それは、少子高齢化問  
題です。現在、天草町の人口に  
占める六十五歳以上の割合は、  
五十パーセントを超えて  
おり限界集落と呼ばれる状態  
にあります。このことからわ  
かるように、今まで大切に受  
け継がれてきた伝統文化や産  
業を維持することが難しくな  
っています。

しかし、このプロジェクトを担  
ってきた方々も高齢化がすす  
みます。そのような中で、地域の  
活性化のために、新たな名産  
品として「高浜ワイン」作りが  
進められています。高浜ぶど  
う復活プロジェクトがスター  
トして十五年。今年十五歳に  
なる私は、大きな縁を感じま  
す。だからこそ、高浜ぶどう  
のために何かしたいという思い

りつつあるのです。それは、与  
謝野鉄幹たちが「南の海の島  
らしい」と感じた高浜ぶどう  
がある風景もなくなる可能性  
があるということです。

実際、高浜ぶどうは戦争や  
気候変化、病害虫の影響で、一  
本だけになってしまった時期  
があります。二〇〇九年、これ  
を危惧した高浜地区の住民の  
手により「高浜ぶどう復活プ  
ロジェクト」がスタートしま  
した。若き文豪たちを魅了し  
た、古き良き高浜の風景を甦  
らせるために、樹齢六十年を  
超える原木から挿し木で苗を  
増やしていったそうです。し  
かし、このプロジェクトを担

が芽生えました。  
そこで、昨年の八月、高浜ぶ  
どう収穫ボランティアに参加  
しました。実際に収穫の手伝  
いを行うことで、気づいたこ  
とがあります。それは、収穫作  
業は、きつくて大変だとい  
うことです。大きく広がる葡萄  
棚は、採っても採っても終わ  
りが見えません。また、場所  
によっては、潜って中腰の体勢  
で収穫作業をしなければなり  
ません。それに、八月下旬とい  
う夏の暑さに、汗が吹き出て  
止まりません。その中で、六十  
歳を超える高浜ぶどう保存会  
の方々が黙々と作業をされて  
いました。その姿に、私も負け  
ていられないと気合いが入  
り、最後まで頑張ることがで  
きました。  
また、ボランティアに参加  
して

することができ、高浜ぶどうが  
いかに大切に育てられているの  
か、そして多くの人から愛さ  
れているのかということを知  
ることができました。おかげ  
で、私はもっともっと天草町  
のことが大好きになりました  
。故郷を愛する心、それがき  
つと地域活性化の大きな原動  
力になると思います。

この体験をきっかけに、私  
は地域のボランティア活動に  
積極的に参加するようになり  
ました。私だけでなく、私が通  
う天草中学校の生徒の七割以  
上は、地域の各行事でボラン  
ティアとして活躍していま  
す。その中で、地域の方々の思  
いを感じ、私のように伝統を  
受け継ぎたいという思いを持  
つ人が増えていけばよいと思  
っています。

「天草は日本の宝島」。そう  
断言できるくらい自慢の故郷  
です。天草町、そして天草地域  
の魅力をより多くの人に知っ  
てもらうため、これからもボ  
ランティアや地域の行事に積  
極的に参加していきます。そ  
して、いつかそれを世界に発  
信できるようになりたいで  
す。そのために、私は、好き  
きな英語の学習を頑張ってい  
ます。コロナ禍があけ、これか  
ら日本、そして、天草を訪れる海  
外の方が増えると思います。  
そのような人たちに、自分の  
言葉でしっかりとコミュニケ  
ーションをとりながら、天草  
の魅力や自分の思いを伝えら  
れるガイドに挑戦したいと思  
っています。



高浜ぶどう収穫ボランティア (R6.9.1)



「Amakusa is a treasure island.  
It has many amazing things.」